

第 53 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	上島ゼミ	チーム名	ヴィーガンのチー牛
タイトル	食品ロスと人類の危機		
テーマ群	c) 公共経済、e) 産業・企業		
メンバー	小山和眞、鼻本悠剛、梅澤佳功、松本拓斗、小林誠也、井野妃南子、藤井久子、横山実優		
研究計画内容	<p>【研究背景】</p> <p>農林水産省より、まだ食べられるのに関わらず廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は日本国内でおよそ 523 万トン(2021 年)と発表された。また、世界では食料生産量も 3 分の 1 に当たる約 13 億トンもの食料が毎年廃棄されている。廃棄された食料は可燃ゴミとして処分されるため、焼却の際に二酸化炭素を排出し、地球温暖化を急速化させる。</p> <p>食品ロスは環境に悪影響を与えるだけではない。現在、世界の人口は約 79 億人だが、2050 年には約 97 億人にのぼると予想されている。食品ロスに関して何も手を打たずにいると、人口増加によって栄養不足を抱える人が増え、貧困に拍車がかかる。そこで、食品ロスを減らすための事業を行なっている組織を訪ね、私たちが食品ロスを減らすために今日から取り組めることを考えたい。</p> <p>【研究内容】</p> <p>世界各国と日本の食品ロスの現状を比較しながら、近年の日本の食品ロス問題を分析し問題を紐解いていく。</p> <p>毎年 10 月 16 日は「世界食糧デー」である。日本では、毎年 10 月を食品ロス問題や飢餓問題について考える「食品ロス削減月間」としている。また、令和元年 5 月 31 日に公布された食品ロス削減推進法により、10 月 30 日を「食品ロス削減の日」と定めている。その上で、食品ロス削減事業を展開している公共団体・企業にインタビューを行なう。そして、本月間中の取り組み内容とその効果を踏まえて、食品ロス削減のために私たちが今日から実施できることについて考える。</p> <p>【期待される効果】</p> <p>私たちは普段、輸入食品も食べている。輸入食品のロスを減らすことにより、その分を食料が不足している国々の飢餓に苦しむ人々を救うことができる。また、食品ロスが減少すると、運搬や焼却のために使う化石燃料の使用量を抑えることができるため、地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出量を減らすことができる。</p> <p>【参考文献】</p> <p>「食品ロスの現状を知る-農林水産省」 https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2010/spel_01.html 2023 年 10 月 23 日</p>		